

考古－１ 旧石器時代人の狩猟

歴史展示室入り口にあるジオラマは、1万数千年前の南九州の森の中で狩りをする旧石器時代人々の様子を現したものです。旧石器時代は土器や弓矢が発明される以前の今から約1万2千年前までの時代です。背景の写真は、昭和40年から41年にかけて県内で



初めて旧石器時代の遺跡として調査が行われた日之影町いずるはの出羽洞穴遺跡です。また、約7万年前から約1万年前まで寒冷な気候が続き、平均気温は今より8度ほど低かったため、人々は防寒のために毛皮をとじ合わせた衣服を身につけていただろうと思われます。このジオラマでは、寒冷な気候が終わりに近づき、現在南九州でみられるような照葉樹の森が広がり始めた様子も含めて紹介しています。